

風力発電についての意見聴取会

第1回

開催日時 平成21年9月5日（土曜日）
開催場所 松阪市飯南産業文化センター
学識者 朴恵淑、矢尾板俊平、鎌田泰成、落合博明
参加人数 200名

第2回

開催日時 平成21年9月6日（日曜日）
開催場所 松阪市産業振興センター
学識者 朴恵淑、前田太佳夫、宮岡邦任、長谷川靖、落合博明
参加人数 150名

市民の主な意見

騒音・低周波音

- ・5月に市で騒音と低周波音の測定をされたとのことだが、その結果が示されていないと思います。また、結果は季節、気候や風向といった条件に左右されることがあるのでこれだけのデータでは足りないと思います。
- ・ナセルからの卓越周波数が100から250ヘルツであるなら、低周波音の周波数分析だけでなく20000ヘルツまでの周波数分析も必要ではないでしょうか？G特性のデータだけではその周波数帯の評価はできません。
- ・現実に10ヘルツ以下の音で苦しんでいる人はたくさんいると思いますが、これについてはどうお考えですか？
- ・低周波音の問題についてはよく研究してほしいと思います。

水質

- ・プーチング工のために10メートルちょっと掘ることにより、地下水を含む水質が変わってしまうと思います。事業者は変わらないと言うが何の根拠もありません。
- ・基礎工事のために地盤強固剤を注入されるかと思いますが、それによって自然環境も変わりますし、飲用水も飲用出来なくなると聞いています。

動植物・生態系

- ・白猪山はクマやカモシカがいますし、貴重な植物も多い所です。これについてどうお考えですか？
- ・白猪山の尾根筋は目視だけでも多くの猛禽類が渡っています。既設の風力発電施設から200メートルくらいの範囲では野鳥の数が減っています。
- ・この風力発電が仮に出来たとして、そこに住みたいと思いますか？また、白猪山の動植物はそこに住みたいと思っているのでしょうか？低周波音は人間にはあまり影響はないかもしれませんが動物はどうでしょうか？人間よりもっと敏感な耳や身体をもっています。動植物が消えてしまった後で失敗したと思ってもそれを直すのに何百年とかかると思います。

災害

- ・白猪山の構造や地質も分かっているのでしょうか？
- ・これまでも大きな災害が起きていますし、小さい災害は数え切れないくらい起こっています。
- ・地元住民は災害を恐れています。災害で財産への被害等があった時、その責任は誰が取ってくれるのでしょうか？工事を決定されるのであれば地域住民に対してどのような保障が担保されるのか、そういったところまで住民が納得いく形で工事を進めてほしいと思います。
- ・白猪山に限らず、松阪市付近は花こう岩という岩石で出来ています。それも風化が相当進んでいます。このような所に大きな構造物を建てるので今まで以上に災害が起こる可能性が高くなると思います。
- ・南斜面と北斜面には東西に断層がはしっていると推定されていますし、六呂木町には南北に断層がはしっていることが確認されています。
- ・ジャネックスの搬入路の開発にあたっては、土質が砂質ということもあって崩壊の可能性がありますので開発後のケアにも配慮して下さい。また、山林の崩壊を未然に防ぐような処理をして頂きたいと思います。

その他

- ・色々な問題がある中、皆さん質問したいことがたくさんある中、質問が1人1つまでというのでは意見聴取会を開く意味がないと思います。
- ・白猪山山頂からロープを張って家までの距離を測ったところ、示されている距離とはかなりずれています。
- ・今回の意見聴取会の後のフォローをどうされるのかお聞きしたいです。
- ・この地域に風力発電が建つことによるメリット、デメリットについて聞かせてほしいと思います。

- ・市から経過説明があったことは感謝しますが、やりましたという報告だけではなく、結果どうだったのか、その結果を受けて市がどう考えていくのか、どう事業者に意見を申し上げていくのか、それを受けて事業者は地域住民に対してどう対処していくのか、それらを今後考えていってほしいと思います。
- ・この地域は獣害が多いですが、音によって動物が山から下りてきて畑や田んぼを食い散らかすということがあるのでしょうか？
- ・飯南町から離れて仕事に出ているので日中にケーブルテレビや回覧で情報を提供されても見る機会がありません。なるべく紙でご返答頂きたいと思います。
- ・審議の結果、ノーになることはあるのでしょうか？あるとしたら市の対応はどのようなのでしょうか？
- ・発電機の寿命は13年から14年と聞きますが、それだと元が取れないのではないのでしょうか？また、一番電力の必要な真夏の夜に止まっていて、ほとんど電気の要らない真冬の夜に回っています。平均でいくら回っていても実際あまり発電には役に立っていないのではないのでしょうか？
- ・意見聴取会をするのであれば1年くらい前に開いてほしかったと思います。
- ・環境保全審議会の傍聴者はほとんど1人か2人しかいない。もっと市民の方に関心を持ってほしいと思います。
- ・開発される面積は白猪山全体のうちの何パーセントでしょうか？航空写真で撮った写真や平面図で白猪山全体のうち開発面積がどれだけを占めるかを知りたいです。
- ・風力発電で地球温暖化に貢献するということですが、二酸化炭素を吸収し、光合成を行っている森林を壊してまで風力発電をするメリットはあるのでしょうか？太陽光や森林資源の活用もありますのでそこらも考えて頂きたいと思います。

学識者意見

朴恵淑氏

- ・生物多様性、地球温暖化、砂漠化の防止については17年前に地球サミットで約束されている。温暖化、生物多様性、砂漠の防止は分けては考えられないようなものである。
- ・幸い松阪市では新エネルギービジョンというものが出来ている。その中で今まで使っていた化石燃料をゼロには出来ないけれど、どう減らしながらエネルギーを得ていくのか、どんどん割合は減らしていかなくてはならない。太陽光、バイオマス、風力、私たちはベストミックスと呼んでいるが、一番良い組み合わせとして松阪ではどうしていくのか、実はもう策定されているが、実現にあたってはそんなに簡単な問題ではなく、財源の確保や環境への影響色んなことを総合的に含めて議論をしなくてはならないものである。

前田太佳夫氏

- ・風車の寿命については20年以上という設計規格がある。他の地域で風車寿命が短命になる理由は分からないが、立ち上げ当初よりは寿命見積がしっかりできると思う。
- ・風車は風で回るものなので風の弱い夏場にあまり回らず冬場によく回るというのはご指摘のとおりだと思う。
- ・地球温暖化防止と森林破壊という両側面があることについて、森林の専門ではないが、確か県でも二酸化炭素を活性化する森林とすでに活性化しなくなった森林とに分けて考えていると思う。ただ、開発によって伐採する森林面積は減らす必要がある。

落合博明氏

- ・風車から出る音として、羽の先端のシュッシュュッという風切音、羽の回転に起因する低周波音、特にダウンウインドの風車になりますが、タワーの周りに渦ができてそれを羽がバサバサッと切る音、それからナセルから出る機械音などがある。
- ・風車には風上側に羽があるアップウインド、風下側に羽があるダウンウインドの2種類があり、特にダウンウインド型の風車は1980年代にアメリカで問題になった。ダウンウインド型であることと、羽とタワーの距離が近いこと、回転速度が速いことによってある特定の周波数が卓越した。それを受け、最近ではメーカーもアップウインド型の風車にするように工夫することが多くなり、ダウンウインドであってもタワーと羽の距離を広く取ることによって渦を小さくするような工夫をしている。
- ・最近の風車で問題になっているのは100ヘルツから250ヘルツ以下の騒音で特定の周波数が飛び出ていることによって問題になる場合がある。
- ・10ヘルツの閾値は大体95から100デシベル程度であり、聞こえなければ不快感などの影響はないということは専門家の一般的な意見である。
- ・騒音の動植物への影響について研究している専門家はあまりいないのでデータはほとんどない。低周波音については鶏や牛が室内にいる時に低周波音、超低周波音による建具のがたつきでびっくりしてしまったという例がある。室外にいて影響があったという話は知りうる中では聞いていない。

矢尾板俊平氏

- ・この地域に風車が建つことによってメリット、デメリットの両方あると思う。
- ・デメリットとしては土地の開発や住民の方の不安が挙げられる。メリットとしては地球温暖化を抑えながら電力を得られるということが考えられる。松阪市が新しい産業転換にむけた新しいエネルギーモデルを考えていくことが松阪市のメッセージになるだろうと思う。また、固定資産税や法人税といった税収が事業者から松阪市に入るようになり、教育や子育て支援、環境対策など市民の生活に直結する事業へのお金が生み出せるようになるだろうと思う。

- ・住民と市、事業者との信頼関係を深めるには審議内容などの徹底した情報公開に尽きると思う。市に対しましては引き続き徹底した情報公開をお願いしていきたい。

長谷川靖氏

- ・水質対策については沈砂池だけでは万能とは言えない。浚渫を含めた維持管理までしっかりして頂く必要がある。

宮岡邦任氏

- ・沈砂池の浚渫もそうだが、浚渫した土砂をどこに運搬するのかという話もあると思う。運搬先で濁水問題が生じる可能性も考えられる。
- ・白猪山は場所によっては水道水源をもった流域が含まれているので審議会では充分審議をしている。
- ・工事後に濁水が長く続くということになれば直接的な工事の影響というよりは取り付け道路や管理の問題、開発した部分への植樹後の管理の問題であることも考えられる。植物がしっかり育っているかということも含めて事後の管理をしっかりしていかないと、そこからの土砂の崩壊で濁水が生じる可能性も考えられる。
- ・事前の環境影響評価が甘いと思うことは非常に多い。地域の特性は少し離れると全く異なってくるので、しっかり調査をしないとその地域の自然の状況は分からないと思う。それで地域住民が納得のいく結果が出たところで初めて開発されるべきではないかと思う。

朴座長まとめ

科学的な知見が100%正しいかどうか分かりません。今ある中で最高の科学的知見を用いて、研究者として良心に従って審議を続けていくことをお約束します。

審議会としましても、しかるべき時にきっちり説明責任を果たします。決してどこかの誰かのために審議しているのではなく、白猪山をこよなく愛し、歴史的、文化的にも今まで活動して来られた皆さんのためにしています。良かれと思ってしたことが結果的に悪い結果に繋がってしまったということに絶対ならないよう、必死にやっておりますのでご理解頂ければと思います。

市長まとめ

活発な議論を交わして頂きまして感謝申し上げます。どれも本質を突いていると思います。

ただ一方で、例えば今日本全国をしっかりと見て頂いたときに火力発電や原子力発電で多くの電力を賄っている現実がございます。原子力発電はその地域の皆さんが納得して、100パーセント満足して発電所が建ったかということそれはノーだと思います。ただ、それでも原子力も火力も水力も風力も太陽光も何もなければ今日の意見聴取会すらも開けない、

そういう現実があるのも事実です。

松阪市は風力発電を推進しているわけではありません。松阪市に風力発電が必要かどうかにつきましては、地域の方々の生活環境や自然環境等を見据え松阪市としての方向性を考えていく必要があります。

地域の実情も何も考えず、単純に考えると風力発電が建つことによる行政面でのプラスは非常に大きいです。これは行政が建てるのではなく、事業者の方々が建てることによって、固定資産税や法人税などの財源が入りますし、林道整備もして頂くということで、お金のことをだけ単純に考えればメリットは非常に大きい事業です。だからといって私は開発許可をすぐに出すというものでもございません。

地域の方が本当にこの地域に住みたいと思っている時に不安が払拭できるのか、地域振興という次世代への思いがある一方で当たり前の生活に対する不安、動植物、様々な環境に対する心配などそれらについて納得できる説明が出来ない限り進めていく問題ではないと思います。

だからこそ、環境保全審議会、意見聴取会の意見も踏まえた上で、松阪市としての環境、そしてエネルギーの問題、これについては松阪市は他の地域がやってくればいい、そのような松阪市だけが良ければいいという松阪市ではあってはいけないと思います。

日本全体の中で松阪市がどういう方向性の下での位置付けであるのか、動植物や自然環境に対する思いもそうです。一方ではエネルギーに対して日本の中で、三重県の中で責任を持てる地域でなければならないという話もあると思います。

風力発電の建設の承認、不承認については、しっかりと最後には責任のある決断を行政としても下さなくてはなりません。

市民の皆様に対しましても説明責任を果たさなければなりません。

環境保全条例でいう開発行為の承認については、審議会でもしっかりと審議をして頂き、その答申を受ける中で責任のある決断を下していきます。